

共学

法政大学国際高等学校

自由と創造性を
重んじる校風



校舎

二〇一八年度に「法政大学女子高等学校」から共学の国際高等学校に生まれ変わった。女子高時代の自由な校風はそのままに、国際バカロレア・ディプロマプログラムを実施する「IBコース」を設けるなど、よりグローバル化社会に対応した教育を行っている。キャンパスは、横浜市のなかでも東京寄りの鶴見区の住宅街にあり、

首都圏に住む多くの帰国生の通学圏に入っているはずだ。最寄りの京急・生麦駅からキャンパスに向かう途中、何人もの法

政国際の生徒とすれ違った。私服をファッションナブルに着こなした生徒もいれば、反対にきちっと制服を着ている生徒や制服をオシャレにアレンジしている生徒もいる。

女子高時代から生徒の自主性に任せる教育方針のため、制服の着用は義務ではなく校則もないのだ。名物の体育祭前には、青・赤・ピンクなど団の色に髪を染めて盛り上げる生徒もいるようだ。

法政国際の場合は、自主性を重視した学びのスタイルが「責任が伴う自由」を自然に身につけさせているといえる。「本校の自由な校風は、大学が三年早く来たイメージといえわかりやすい」と思いますが、「と、入試広報部の杉山剛先生。そのことば通り、大学のような単位制を採用しており、二年生から生徒一人ひとりが自分に合った時間割を組む。それに伴い「ホームルーム単位での授業」という枠組みもなくなるため、より自由に幅

広く友達関係を築きやすくなる。学びの場でも生活面でも、個性を尊重するシステムと空気が醸成されているのだ。

帰国生も伸びやかに学べる環境

「アクティブ・ラーニング」を軸とした独自のカリキュラムで日本の教育指導要領を満たす「グローバル探究コース」（一学年約二八〇人）と「IBコース」（同二十人）に分かれており、いずれも帰国生入試を行っている。少人数制のIBコースは帰国生が多く、

グローバル探究コースにも一学年十人程度が帰国生入試で入学。一般入試で入った海外在住経験者を含めれば、全体の一〇パーセント程度に上る。「単位制なので好きな授業を選べるのですが、



体育祭で

私は英語をメインにとっています。同じ英語でも異文化理解を深める授業などあっても、幅広い英語力をつけられます」と語るのは、「グローバル探究コース」に帰国生入試で入った二年生女子のAさん。生まれて間もなく中国の上海に渡って六歳まで住んだあと、小学四年生から中学三年生の夏までシンガポールに滞在した。いずれの国でもインターナショナルスクールに通い、英語は流暢に話せる。「日本に帰ってきたら英語力が落ちてしまうと心配でしたが、法政国際に入ってからかえって伸びました。周りに向上心のある友達が大きいので、油断していたら抜かれています。そんな環境に背中を押されて、英語をがんばっているんです」と話す。

習熟度別の「コミュニケーション英語」など、Aさんでも「レベルが高い」と感じる授業も多い。第二外国語も選択でき、Aさんは、幼いころは少しできたがほとんど忘れてしまったという中国

所在地：〒230-0078 神奈川県横浜市鶴見区岸谷1-13-1

TEL：045-571-4482

URL：https://kokusai-high.ws.hosei.ac.jp

交通：京急「生麦」駅から徒歩5分

生徒数：911人（男子226人、女子685人）

帰国生数：50人

教員数：専任45人（うち外国人専任教諭1人、

外国人特別講師3人）

非常勤45人（うち外国人6人）

帰国生入試の出願資格：

帰国生 継続して1年以上海外に在留し、出願時に帰国2年6カ月以内の者

海外生 出願時に海外の学校で学んでいる者（学校種別は問わず）

語も履修している。

一方、杉山先生はこう話す。

「『国際高校なので語学力だけを引上げよう』という発想ではありません。英語力が高い生徒もいれば、かならずしもそうではない生徒もいます。国際化とは、多様な他者と交わる能力や批判的思考を身につけること。もちろん、ネイティブスピーカーの授業を選択するなどすればかなり高度な英語力をつけられますが、英語ができないとやっていけないということはありません」

どの教科でも、生徒同士でディスカッションをしたり、IT機器も活用しながらプレゼンをしたり、

インタビューに答えてくれたAさん



レポートを書いたりというアクティブ・ラーニング型の授業が非常に多い。

「いわゆる『日本的』なスタイルで型から入っていくことはありません。海外で伸びやかにやってきた生徒の個性がそのまま生きる学校だと思っています」

IBコースでは、数学なども英語で学ぶイマージョン教育が実施されており、IBディプロマ（国際バカロレア資格）を取得することで海外の大学に進学する道も開かれる。

「生徒も教員も、IBで身につけた知見とスキルをグローバルコースの皆にも広げてほしいと考えています」と杉山先生が言うように、IB生が学校全体へ与える好影響への期待も大きい。ほとんどの生徒が法政大



プレゼンテーション大会の様子

「生徒も教員も、IBで身につけた知見とスキルをグローバルコースの皆にも広げてほしいと考えています」と杉山先生が言うように、IB生が学校全体へ与える好影響への期待も大きい。ほとんどの生徒が法政大

「楽しんであつと言う間に二年間が過ぎてしまった」と言うAさん。「パンフレットやホームページにもいろいろなことが書かれていますが、実際に入学したら想像以上に楽しい学校です。いろいろな経験をしている子が集まっているので、日々刺激的な生活が送れます」

（取材・文 内村浩介）

られ、約八割が実際に進学する。残りの生徒は国公立や早慶上智など他大学に進学。アクティブ・ラーニングや国際教育で得た力が総合型選抜で生かされる場合が多いという。

一丁の活用や国際交流にも積極的

Aさんは、インターナショナルスクール時代に、カンボジアの小学校に水洗トイレをつくるなど、東南アジアの貧困地域でボランティア活動を経験した。高校に入ってから生徒会で国際交流係になり、同様の活動を継続しようと動いている。コロナ禍が落ち着いた昨夏には、個人的にカンボジアに渡り、学校に手洗い場をつくるという現地の日本人グループが実施したボランティア活動に参加した。学校は生徒会活動をあと押しして

いた学校の国際交流プログラムも再開されようとしている。取材時にはすでにドイツ、デンマーク、フランスから留学生を受け入れており、スウェーデンの姉妹校への交換留学、オーストラリア、イギリス、カナダへのチーム留学も今年から再開する見込みだ。

国際高校になってから最も変わったのは、男子が入ったことだ。いまは女子の比率が約七五パーセントと高いが、年々男子生徒の入学が増えていくという。もう一つの変化は、IT化が急速に進んだこと。生徒全員にタブレット端末が配布され、授業の多くのことや連絡も端末上で行われる。そのため、コロナで一斉休校した際もスムーズにオンライン授業に移行できたそうだ。国際交流も、台湾、韓国、スウェーデンなどの高校生とオンラインで結んで継続された。